

「富山ニュービジネス協議会」第1回例会

平成27年7月5日(火) 18:20～19:30分

於:富山電気ビル

講師:首都大学東京 教授 本保 芳明 氏(初代観光庁長官)

参加者:38名

講演テーマ 「富山における観光の可能性」

富山NBC第1回例会(企業革新研究委員会主催)が開催されました。

講師の本保氏より、「富山における観光の可能性」をテーマに、今後の日本を支える観光ビジョンについてご講演いただきました。



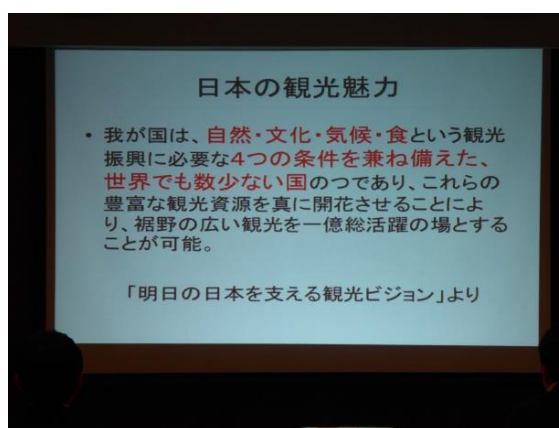
インバウンド観光客 2020年には4000万人に！！（2015年の約2倍）

4000万人時代へ
「明日の日本を支える観光ビジョン」

	2020年	2030年
訪日外国人旅行者数	4000万人 (2015年の約2倍)	6000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人消費額	8兆円 (2015年の2倍超)	15兆円 (2015年の4倍超)
地方部での外国人宿泊者数	7000万人泊 (2015年の3倍弱)	1億3000万人泊 (2015年の約3倍)
日本人国内旅行消費額	21兆円 (最近5年間の平均から約5%増)	22兆円 (最近5年間の平均から約10%増)

4000万人は現在世界トップのスペイン・アメリカレベル。フランスでも3000万人。日本は外国からの旅行における陸路がない。必然的に近隣国からのインバウンド観光客が増加する。インバウンド観光客の60%はリピーターであり、リピーターを増やすための取組みが国策ベースで必要となる。

特に日本においては、地方観光地への分散が加速されており、国際水準も高い位置づけとなっている。



地方においてもインバウンド観光客の増加により新たなビジネスが展開され始められている。観光資源の再発見により、日本人向けには全くなかったサービスが提供され始め、新たなビジネスとなっている。

■ニセコ町の改革





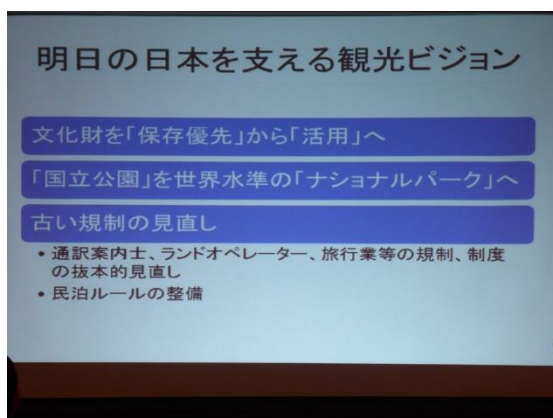
■ 飛騨市

里山ハイク、サイクリングツアー



■ 新宿高島屋

外国人向けバイクシェア



国策として赤坂の迎賓館を一般公開するなど新たな規制緩和も行われているが、日本はインバウンド観光客には新しい発想をもって対応できるが、日本人向けにはできていない。大きな観光のうねりが出てきていて、社会とビジネスチャンスが変化している。これをいかに捉えて新たなサービス展開につなげるかが課題となる。